

障害の状況

1. 赤潮

赤潮の発生件数は、東京湾においては、昭和 54 年から平成 19 年までの間、年間 50 件前後で横ばいで推移している。伊勢湾においては、昭和 54 年から平成 5 年までの間、年間 159 件から 50 件程度にまで減少し、近年は横ばいで推移している。瀬戸内海については、昭和 50 年前後に年間 200～300 件程度の赤潮が発生していたが、長期的には減少傾向にあり、近年においては年間 100 件程度で横ばいで推移している（図 8-1）。

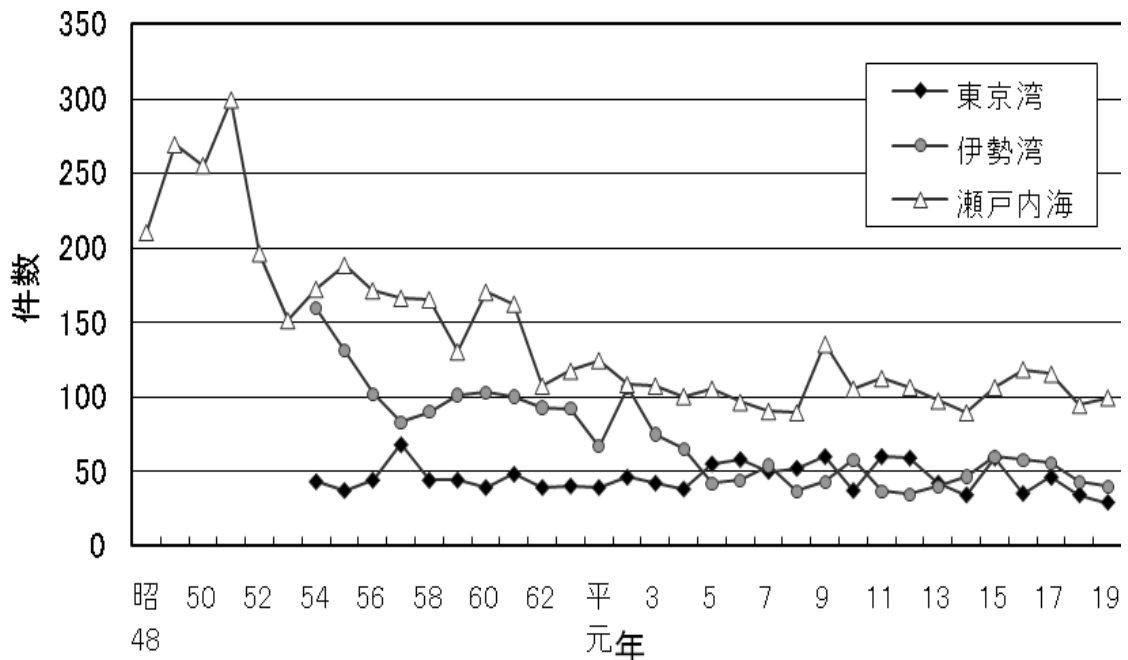
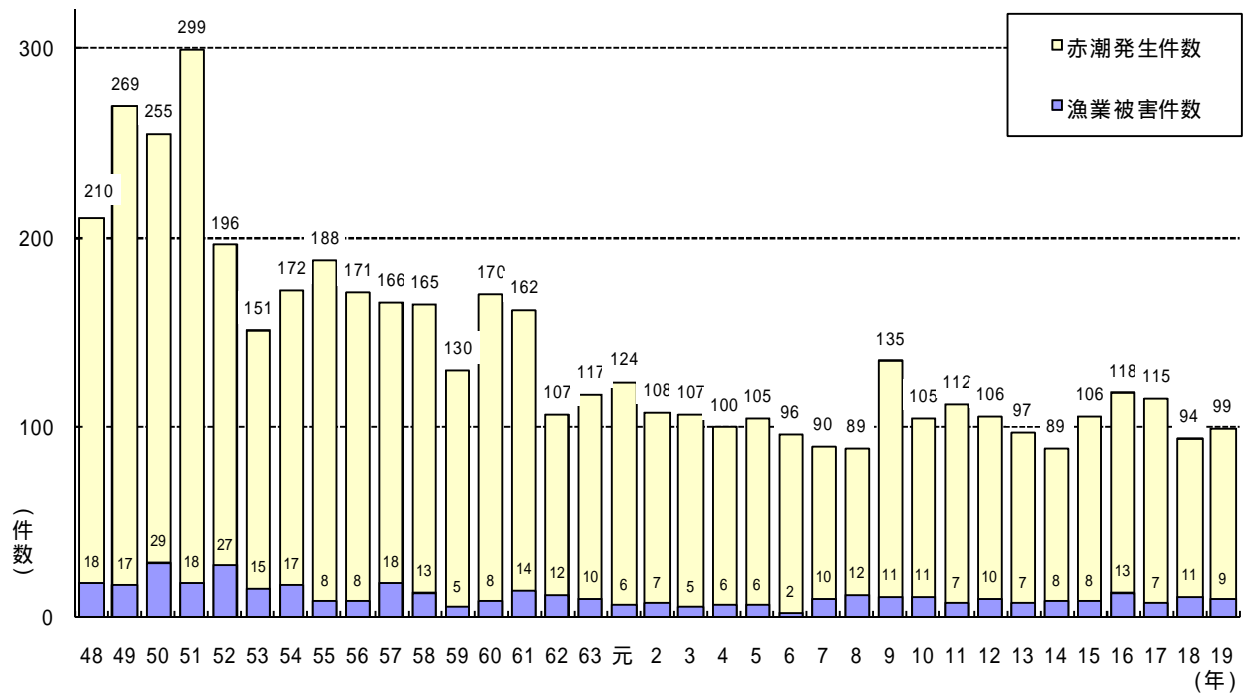


図 8-1 東京湾、伊勢湾、瀬戸内海における赤潮発生件数の推移

養殖漁業が盛んな瀬戸内海においては、赤潮の発生に伴う養殖魚類のへい死といった漁業被害が発生している。このような赤潮による漁業被害の件数は、ピーク時には年間29件であったが、近年では年間10件程度となっている（図8-2）。

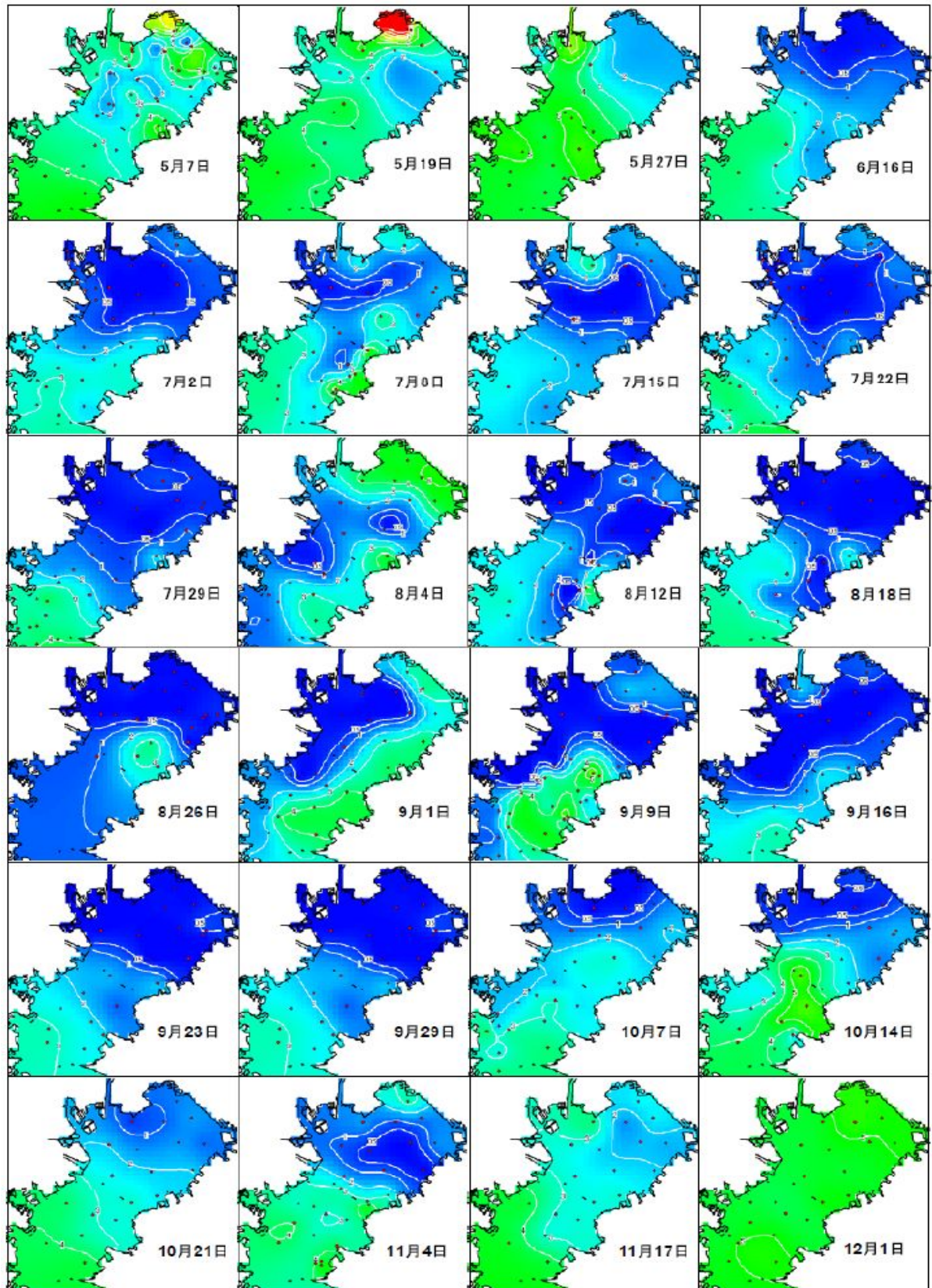


出典「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)

図8-2 瀬戸内海における赤潮発生及び漁業被害状況

2．貧酸素水塊

東京湾、伊勢湾、大阪湾では、夏季を中心として成層化し、底層部分において貧酸素水塊が発生している。関係都府県等の調査によって、大規模な貧酸素水塊が数ヶ月にわたって存在していることが明らかになっている（図 8-3～5）。



出典) 千葉県水産総合研究センター
備考) DOは底上1mの値



図 8-3 東京湾における底層DOの分布 (平成 20 年)



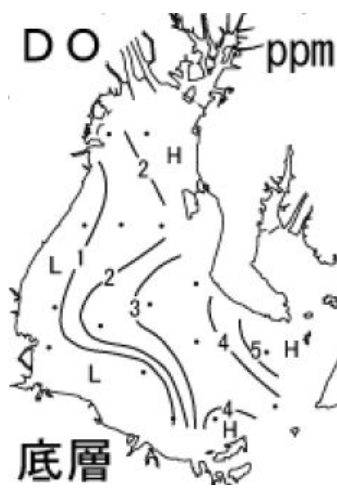
5月1日



6月6日



7月3日



8月1日



9月4日



10月3日

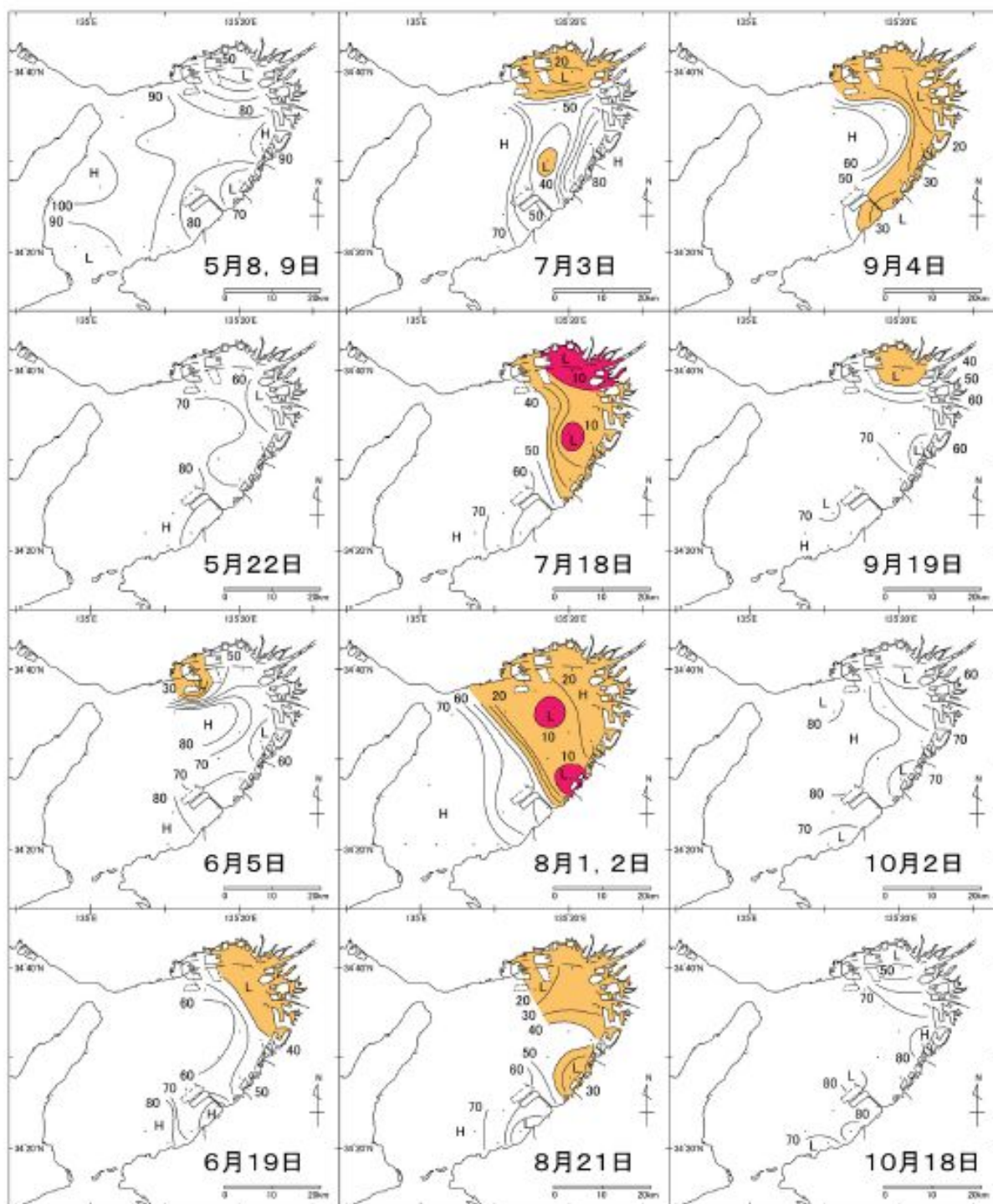


11月6日

出典)三重県科学技術振興センター

備考)DOは底上1mの値

図 8-4 伊勢湾における底層DOの分布(平成20年)



出典)大阪府環境農林水産総合研究所

備考)DOは底上1mの値

備考)薄いハッチは酸素飽和度40%以下、濃いハッチは10%以下を示す

図 8-5 大阪湾における底層DOの分布(平成 19 年)

3. 青潮

貧酸素水塊が気象条件により沿岸域に湧昇すると青潮(苦潮とも呼ばれる)となり、貝類の死滅などの被害が発生することがある。また、DOの低下は、底泥からの栄養塩類の溶出量が増加する原因ともなっている。東京湾及び三河湾における青潮の発生件数は、昭和60年前後と比較すると減少してきている(図8-6)。

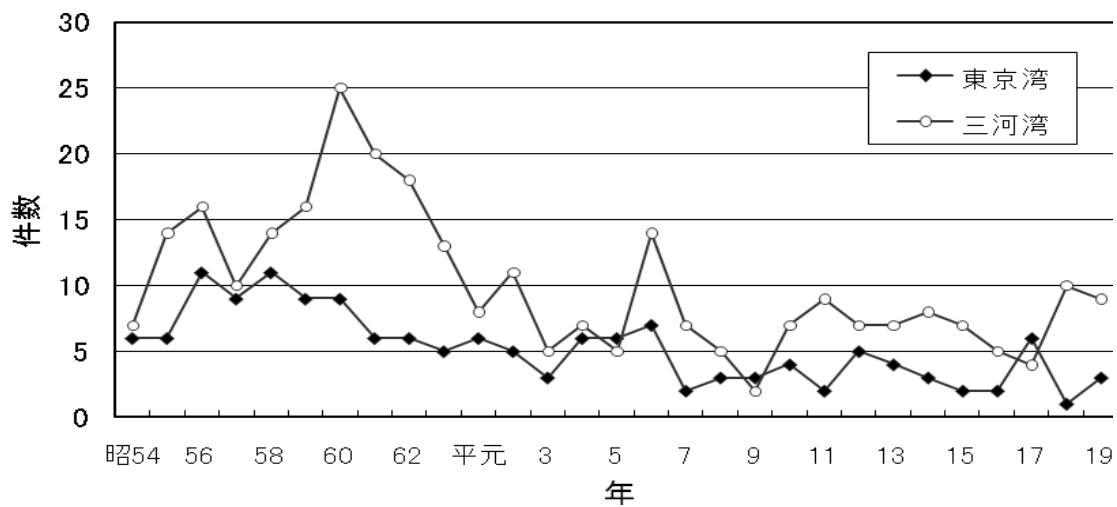


図8-6 東京湾及び三河湾における青潮(苦潮)の発生状況